

【今日の説教から】

高齢の出産は稀に起こりうるのですが、処女懐胎は絶対に起こり得ないこととして医学では理解されます。

天使の言葉。それは「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」でした。彼女は深く当惑し、胸騒ぎがしました。そして彼女は自分の身に起こるはずもないことを告げ知らされます。

神様が私たちを導かれる道。それは時に深く当惑し、戸惑い、悪い胸騒ぎのする道かもしれません。危険と困難と恐れが漂う道かもしれません。

それは婚約者ヨセフの考えからも分かります。「夫ヨセフは正しい人であったので、彼女のことを公けになることを好まず、ひそかに離縁しようと決心した」(マタイ1章)

これは離縁ものであったのです。それ以上に、マリアにとっては姦通罪の刑に会うような出来事だったのです。

しかしマリアはそれらの心配事に対する説明を一切求めませんでした。彼女はただ起こり得る要素がないと語りました。恐れもせずに、受け入れたくないとも言わずに、どうやらそんなことが実現するのかと問いました。

「神には、なんでもできないことはありません」これが答えでした。「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられ」る、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいている」「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおう」。これらの言葉はそのまま受け入れるべき恵みの言葉なのです。

皆様おはようございます。

ついに雪の朝となりました。高速道路には冬用タイヤ着用の規制が出ました。私はちょうど先週末にタイヤ交換をしましたので、事なきを得ましたが、12月上旬の雪は、例年より少し早い降雪なのではないでしょうか。運転にしましても、歩行にしましても、ぜひ皆様お気を付けください。

クリスマスに向けてのキャンドルが2本になりました。再来週にはクリスマスを迎えます。ずっと暖かい陽気が続いていましたから、どうもクリスマス、年末という気分がしませんが、今朝は雪が舞い、少し屋根が白くなって、そんな雰囲気になってまいりました。

先々週はザカリヤとエリサベツのお話でした。どうして長年の祈りは聞かれなかったのか、どうして最善を尽くして神様の前に進んでいたのに祈りが聞かれなかったのかという長年の疑問は、ある日突如として解決するのです。しかし何をいまさらという気持ちもまたザカリヤにはありました。事実上、祈りが聞かれたって言っても、時間切れではないか。この老年に及んで、祈りが聞かれたなどと言われても、それは空疎な絵空事に過ぎないのではない

かとせせら笑うような心の思いだったのではないのでしょうか。

しかし神様の御業は、いつ、どのように考える、私たち人間が、これが最善と考える思いとは異なるのです。このことは心に留めておきたいと願います。私たちは狭い了見で、この時でなければベストではない、この方法でなければ最善ではないと軽々しく決めつけますが、神様の見方は異なるという事なのです。まさにピリピ4章のこの御言葉の通りです。

4:5 あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。

4:6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

4:7 そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

さて、ザカリヤとエリサベツが「ふたりともすでに年老いていた」とありますが、何歳くらいであったかという問題は別として、今日でも超高齢出産という事は稀にあるわけですし、60歳を過ぎた方の出産も記録にはあるようです。大変難しいことではありますが、医学的には否定されてはいません。しかし今日受胎告知されたマリアについては、処女懐胎であったのですから、これは医学としては全く不可能と考えられることだと思います。ですから、何と言いますか、奇跡のハードルは上がっているわけです。季節のハードルが上がっているという事は、信じるハードルも上がっていると言ってもよいのではないのでしょうか。

高齢出産の告げられた時、ザカリヤは、「どうしてそんな事が、わたしにわかるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています」と不満をあらわにしましたが、もし仮に彼がマリアの立場であったなら、それはそれは悲慘な展開になっていたのではないのでしょうか。それではマリアに対する受胎告知の始終を読んでいきたいと思います。

1:26 六か月目に、御使ガブリエルが、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の一処女のもとにきた。

1:27 この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなづけになっていて、名をマリヤといった。

1:28 御使がマリヤのところにきて言った、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共にいます」。

1:29 この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思ひめぐらしていた。

乙女が、処女が赤ちゃんを産むという事はある事ではないこととして考えられますが、そのあり得ないことが起こるという事が奇跡的なしるし、メシアキリストの誕生の奇跡であるという事がマタイの1章とイザヤ書の7章に書いてあります。

マタイ 1:18 イエス・キリストの誕生の次第はこうであった。母マリヤはヨセフと婚約していたが、まだ一緒にならない前に、聖霊によって身重になった。

1:19 夫ヨセフは正しい人であったので、彼女のことが公けになることを好まず、ひそかに離縁しようと決心した。

1:20 彼がこのことを思いめぐらしていたとき、主の使が夢に現れて言った、「ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい。その胎内に宿っているものは聖霊によるのである。

1:21 彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」。

1:22 すべてこれらのことが起ったのは、主が預言者によって言われたことの成就するためである。すなわち、

1:23 「見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう」。これは、「神われらと共にいます」という意味である。

1:24 ヨセフは眠りからさめた後に、主の使が命じたとおりに、マリヤを妻に迎えた。

1:25 しかし、子が生れるまでは、彼女を知ることはなかった。そして、その子をイエスと名づけた。

「見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう」 これは旧約聖書イザヤ書7章14節の引用です。

7:14 それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる。

しかしこの時マリアにはそれを知る由もありませんでした。

突然御使いが現れ、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」と語りかけられた時、マリアは「この言葉にひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた」とあります。彼女は直感的に何か大変なことに巻き込まれたという胸騒ぎがし、ひどく困惑したと聖書は語ります。しかし彼女は自分の感情の中で即座にひどく胸騒ぎがし、困惑させる天使の言葉を消し去ろう、葬り去ろう、無視し、逃げ出そうとは思わずに、「このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた」不思議に思

って心に問いかけ思いを巡らし続けていました。

主の不可解なる介入と働きかけ。ひどく胸騒ぎがする展開。それはまた、私たちの人生の中にあるすべての不可解な、苦しみと困惑に満ちた、先行きの見えない、時に悪い胸騒ぎがしながらもその全容が分からないがままにもがくような出来事をも言い表しているようにも思うのです。

マタイ 14:25 イエスは夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らの方へ行かれた。

14:26 弟子たちは、イエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと言っておじ惑い、恐怖のあまり叫び声をあげた。

14:27 しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、「しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない」と言われた。

14:28 するとペテロが答えて言った、「主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください」。

14:29 イエスは、「おいでなさい」と言われたので、ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行った。

14:30 しかし、風を見て恐ろしくなり、そしておぼれかけたので、彼は叫んで、「主よ、お助けください」と言った。

14:31 イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかまえて言われた、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。

14:32 ふたりが舟に乗り込むと、風はやんでしまった。

14:33 舟の中にいた者たちはイエスを拝して、「ほんとうに、あなたは神の子です」と言った。

主イエス様は私たちを水の上をも歩かせることのお出来になるお方です。神様はイエス様と共にこの世界のすべてをお造りになられました。人の命をお造りになられた方です。ご自身は誰にも想像されることのない、始めも終わりもない、永遠のお方です。このお方が天を作り、智を作り、海を作られました。この方が水を作り、ブドウの木を作り、ぶどう酒をお造りになられました。このお方によれば、水からぶどう酒を造ることも、嵐を風にする 것도、水の上を歩くことも、パンと魚を増やして多くの人たちに配給することも、たやすくお出来になります。死者をよみがえらせることも、そもそも人のいのちをお造りになられたお方が出来ないこともなく、処女懐胎も、そもそも人を造られるときに最初の人を、その母を用いずに作られたお方は、何もないところから人を造ることをもたやすくお出来になるお方なのです。

私たちはそういうお方を信じることが出来るようにと、ただ恵みによって招かれたのです。世の中には闇が覆っており、私たちの行く手は決してたやすいものではありません。ひどく胸騒ぎがする、困難を極める、困惑する出来事に満ちています。しかし主は御使いを通してこう語られるのです。

「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。

このお言葉に慰めと力づけを賜います。ご一緒に心の中に味わい、噛み締めましょう。

「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。

1:30 すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。

このお言葉をも味わいましょう。恐れるな、あなたは神から恵みを頂いているから。

1:31 見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。

1:32 彼は偉大な者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。

人の世界に主イエス様は遣わされ、恵みと赦しによって地上に救われた者を起こし、神の国を来たらせるという御心が明らかにされました。マリヤはこの後の讃歌でも分かるように、地上への主の救いを待ち望んでいました。彼女は主の救いの到来に対してはワクワクするような気持で聞いていたのではないのでしょうか。自分が姦通の理由で危機にさらされることや、婚約者ヨセフとの離縁の危機にさらされているという不安などどこ吹く風で、御使いから語られる世の救いと自分自身に対する救いに心を躍らせていたのではないのでしょうか。

1:34 そこでマリヤは御使に言った、「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。

どうしてそんなことが私に分かるのかと、自分の頭を納得させよとすごむのでもなく、そんな恐ろしい、私の平穏に水を差さないでくださいと臆病に逃げるのでもなく、マリヤは「どのようにして、どのような方法にて、どのような道すがらで、いかにしてそれが可能になるのか教えてください、私は子を産むという要素は何一つないのに」という語りをしています。ここにマリヤの信仰が良く表れているのではないのでしょうか。天衣無縫で素直で柔軟なマリヤ。恐れるなと言われれば恐れず、恵まれた女性と言われればそうだと信じる。主が共におられると言われればそれを信じる。「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをい

ただいている」と言われればその通り信じて、先ほどの胸騒ぎはどこへやら、神様のお言葉を信じる彼女の姿勢が表れています。

1:35 御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。

1:36 あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になっています。

1:37 神には、なんでもできないことはありません」。

3 1 節から 3 5 辣までは未来形のオンパレードでした。これからこうなる、こうなる、こうなると、神様には未来に対する私たちへの数多い、恵み深いご計画があります。そして神様には何一つできないことはないのです。

「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおう」そうして信仰によって主を宿し、神の内住を頂いて生きる。そして私たちを通して私たちの主イエス様を世に現わす。私たちもまたイエス様を魂の深くに懐胎させていただく幸いなる人なのではないでしょうか。そしてイエス様を世に現わし証しする、主を生み出すもの、主の受肉を伝える者、主のお生まれの意味を、主の贖いと赦しをお伝えするものなのではないでしょうか。聖霊が私たちに臨み、いと高き方が主イエス様を宿す私たちを助けてくださいます。主には何一つできないことはありません。

1:38 そこでマリヤが言った、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。そして御使は彼女から離れて行った。

主のお言葉は純粹で完全です。

詩篇 18:30 この神こそ、その道は完全であり、主の言葉は真実です。主はすべて寄り頼む者の盾です。

18:31 主のほかに、だれが神でしょうか。われらの神のほかに、だれが岩でしょうか。

18:32 神はわたしに力を帯びさせ、わたしの道を安全にされました。

新改訳 18:30 神、その道は完全。【主】のみことばは純粹。主はすべて彼に身を避ける者の盾。

この御言葉にすがって今週も歩んでまいりましょう。「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているので

す。」「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。」「神には、なんでもできないことはありません」

アーメン、主よ、感謝いたします。あなたのお言葉を愛します。あなたのお守りを信じます。どうぞ私たちの一生を導いてください。お従いいたします。アーメン。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。戸惑い、深く当惑し、困り果て、理解もできず考え込むような人生の道。困難と危険をもたらすこの道が、本当に神様の導きによるものなのかと思うその時にも、あなたはお励ましの御言葉を語り、私たちの恐れを取り除き、そして最善のお導きを下さいますから本当にありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン